



基本目標 4

充実した学びと豊かな文化・ スポーツのまち

目標とするまちの姿

教育環境の整備を進め、幼児期から生涯にわたって市民が生き生きと学び、教養を深める機会を創出するとともに、文化芸術活動やスポーツ活動を通じて交流の輪を広げ、まちづくりや地域活性化の力となっていく「充実した学びと豊かな文化・スポーツのまち」を目指します。

展開方針

- 1.生涯学習により市民が活躍するまちづくりを推進します。
- 2.生き生きと学び育つことができる小中学校教育の充実に努めます。
- 3.高等教育等の機会を確保するとともに、学園都市の形成に努めます。
- 4.各世代の生活課題や地域課題に対応した社会教育の充実に努めます。
- 5.文化芸術の振興と文化財の保護・継承に努めます。
- 6.誰もがスポーツに親しめる生涯スポーツの普及に努めます。



展開方針1

生涯学習により 市民が活躍するまちづくりを推進します。

現状と課題

- 生涯学習は、自学自習のほか、社会教育や学校教育で行われる組織的で多様な学習活動を含め、各個人が生涯にわたって自主的・自発的に行うことを基本とした学習活動です。その振興に当たっては、市民一人ひとりが生涯にわたりあらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことができる仕組みをつくることが重要です。また、学びを通じたまちづくりの担い手となる人材の育成・活用や市民の生涯学習活動を支える団体間の連携など、生涯学習をまちづくりの視点から推進する必要があります。
- 家族形態の変容、価値観の多様化などを背景に、地域社会の教育力*が低下しています。地域で子どもたちの成長を支え、地域課題に向き合う市民が活躍できる環境づくりを推進する必要があります。

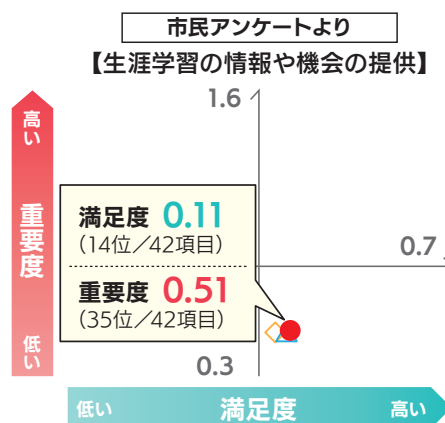
市民の声

【市民アンケート】

- 「生涯学習の情報や機会の提供」は満足度が高く、重要度は比較的低いと評価されていますが、今住んでいる場所から移りたい理由として、余暇や生きがい、娯楽を楽しむ場や機会が少ないことが上位にあげられています。

【都市経営会議からの提言】

- 転入者や高齢者などが持つ様々な知識や技術を、地域づくりに生かしましょう。



基本方向

市民が生涯を通じて学ぶことができ、学びを通してまちづくりで活躍することができる基盤づくりを推進します。

地域と学校の連携により、地域で子どもたちの学びや体験を支える活動を充実するとともに、市民が学んだ成果を生かしてまちづくりに取り組む活動の支援に努めます。

用語解説

※ **地域社会の教育力**：地域の子どもの地域で育てる力や住民自ら認識した地域の課題を自ら解決し、地域としての価値を創造する力のこと。



展開方針2

生き生きと学び育つことができる 小中学校教育の充実に努めます。

現状と課題

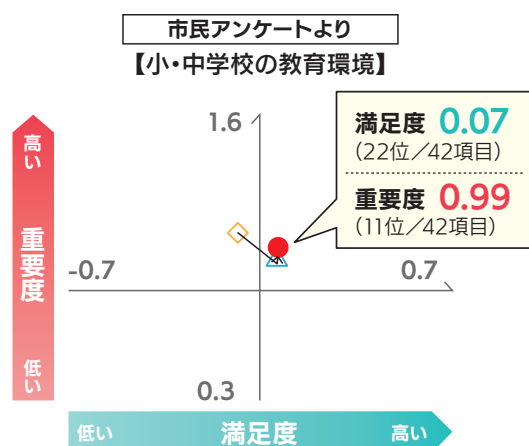
- 令和2年度(2020年度)から新たな学習指導要領が全面実施となり、学校教育においても更なるICTの活用が求められています。基盤となる学校のICT環境は、教育現場において不可欠なものとなり、ICT機器の整備と併せて、運用方法の検討やそれに対応できる人材の確保などを進めていく必要があります。
- 学校施設については、昭和40年代から昭和50年代にかけて建設したものが多く、中長期的な視点での整備の検討や学校運営の多様性への対応を進めていく必要があります。
- 児童生徒がより良い教育環境で学校生活を送れるよう、北陽小学校の過大規模校解消に向けた分離校の整備を進めるとともに、市内小中学校の適正な学校規模の確保に取り組む必要があります。
- 学習指導要領が求める「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力・人間性」などの資質・能力を子どもたちに身につけさせるため、教育施策の検証や学習指導の改善を常に行う必要があります。
- 新型コロナウイルス感染症が拡大する状況では、教育活動全般に配慮する必要があります。感染予防策を講じるとともに、ICTの活用など様々な手法を組み合わせた「学びをとめない」環境づくりに取り組み、必要な学習内容を確実に指導することが求められています。
- 子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題は多様化・複雑化しており、学校段階間の連携、学校と地域の連携・協働の重要性が指摘されています。
- 教育ニーズの多様化等により、教員の長時間労働が常態化するなど、教育現場の負担が増加しています。学校における働き方改革を進め、教員の負担軽減策を実施していく必要があります。
- 規則正しい生活習慣や学習習慣の習得により、子どもたちが確かな学力を身につけられる環境を整えとともに、スマートフォンやインターネットなどに関連する犯罪やトラブル、いじめ等から子どもたちを守ることが重要な課題となっています。これらの解決のためには、家庭における教育との連携が欠かせません。
- 児童生徒の登下校中に不審者による「声かけ」や「付きまとい」などが発生しています。発生件数は減少傾向にありますが、引き続き、子どもたちが安全に安心して登下校できる環境づくりが求められています。

- 障がいのある児童生徒への教育については、個々の障がいに応じた指導や施設の充実など、安心して学習できる環境づくりが必要です。
- 児童生徒を取り巻く環境の変化とともに、問題行動も多様化・複雑化しています。いじめや不登校等は初期対応が重要であることから、未然防止に加え早期発見、早期対応が必要です。
- 学校給食は、成長期にある児童生徒の心身の成長と健康を支えるうえで、重要な役割を果たしています。食に関する指導の充実に努めるとともに、バランスのとれた栄養豊かでおいしい食事を調理し、安全・安心な給食の提供が求められています。また、学校給食の提供に当たっては、施設面の制約から幅広い献立の作成や食物アレルギーに対応した給食の提供に課題があることから、抜本的に対応する必要があります。

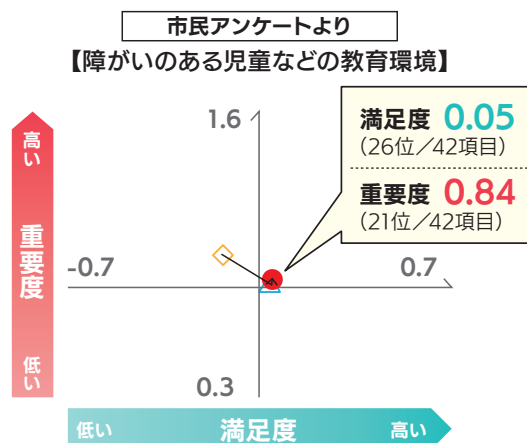
市民の声

【市民アンケート】

- 「小・中学校の教育環境」は満足度は平均的で、重要度は比較的高いと評価されており、満足度は上昇傾向にあります。



- 「障がいのある児童などの教育環境」は満足度・重要度ともに平均的と評価されています。



- 児童生徒数の増加に伴う教育環境の充実を望む声や増加する不登校への対策を求める声があります。(自由記述)

【中高生アンケート】

- 中学生から学校の給食を美味しくしてほしいとの声があります。(自由記述)

【まちづくりインタビュー】

- 子育て世代から、末広小学校でアイヌの教育を取り入れているように、小規模な小学校で特色ある教育を取り入れてはどうかとの声があります。

【ちとせの木プロジェクト】

- 10年後の千歳について「いじめがない学校がいいな」「きゅうしょくをおいしくしてください」との意見がありました。

基本方向

多様化する学習ニーズに対応し、時代に応じた学習活動を行えるよう、学習者用コンピュータや電子黒板などのICTを活用したわかりやすい授業の実践と活用能力の育成を図るなど、教育環境の充実に努めます。

児童生徒が学校生活を安全で快適に送れるよう学校施設の計画的な整備を推進します。

過大規模校の解消や、市内小中学校の適正規模・適正配置に努めます。

学習指導要領に則し、求められる資質・能力の育成を目指して必要な教育課程を確実に実施するとともに、学校の実態や地域の特徴を生かして、特色ある教育活動を推進します。

「豊かな心」「確かな学力」「健やかな体」のバランスが取れた子どもたちを育むため、学力向上・体力の向上に資する施策を推進します。

幼児教育施設・小中学校・高等学校・大学が連携し、円滑な接続を目指すことで児童生徒の育ちを一貫して支援できる体制づくりに努めます。

学校・家庭・地域が、「子どもをどのように育てていくか」、「どのような教育を実現していくか」という目標やビジョンを共有し、力を合わせて学校運営に取り組み「地域とともにある学校」の環境づくりを推進します。

教員の指導力やコミュニケーション能力の向上を図るとともに、業務の見直しや合理化などの働き方改革を進め、教員が児童生徒とゆとりを持って向き合える環境づくりに努めます。

子どもの成長を見守り、支える主体として家庭の教育力向上を図るため、学校から保護者への働きかけを継続するなど、学校教育と家庭教育の連携を推進します。

障がいのある児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援することを目的に、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、特別支援教育体制の整備に努めます。

いじめ問題への対応は学校・家庭・地域・関係機関と連携し、根絶に向けた取組を推進します。

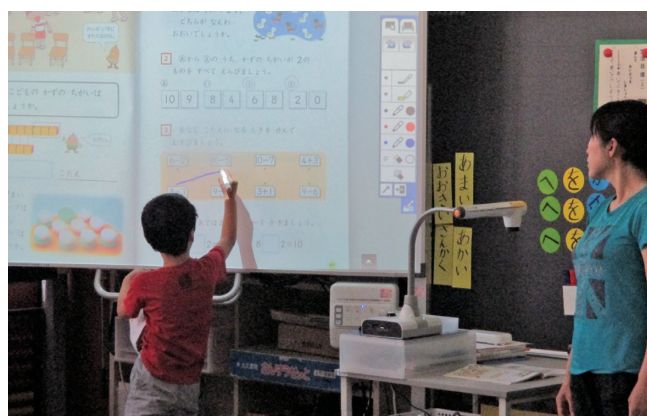
不登校等の悩みや問題行動を抱える児童生徒の現状を把握し、学校復帰に向けた適切な指導体制を構築するとともに、学校や関係機関との連携の中で早期解決に努めます。

児童生徒が、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけることができるよう、食に関する指導を実施するなど学校給食の充実に努めます。

安全・安心で栄養バランスのとれた学校給食を提供するとともに、食物アレルギーに対応した、新学校給食センターの整備に努めます。



千歳市立みどり台小学校 完成イメージ図



電子黒板を使った授業風景

展開方針3

高等教育等の機会を確保するとともに、 学園都市の形成に努めます。

現状と課題

- 市内には2校の高等学校と1校の高等支援学校があり、これらの高等学校等では、生徒の適性・能力、興味・関心、進路等の多様化や生徒数減少に対応した特色ある教育が進められています。
- 近年の社会情勢の影響により、奨学金の給付希望者は増加傾向にあります。今後も、向学心のある生徒・学生が修学できる環境を確保することが必要です。
- 公立千歳科学技術大学が提唱する「スマートネイチャーシティちとせ構想※」を促進させ、千歳市の知の拠点として将来にわたり発展するためには、教育力を向上して学生を確保するとともに、地域との連携・協力を一層深めていく必要があります。
- 少子高齢化が進展する中、将来にわたり活力あるまちづくりを進めるためには、市内にある大学などの高等教育機関と連携し、学生たちの若い力をまちづくりに生かしていくことが必要です。

市民の声

【大学生アンケート】

- 千歳市での暮らしに関する評価について、「学校、学習環境」への評価が比較的高くなっています。

【都市経営会議からの提言】

- 胆振東部地震の経験を生かした、より災害に強いまちづくりをめざしましょう。（公立千歳科学技術大学との連携）

用語解説

※ **スマートネイチャーシティちとせ構想**：公立千歳科学技術大学が有する理工系の人材と知識を千歳のまちづくりに展開することで地域経済活性化や市民生活向上などの効果を生み、地域の発展に寄与する公立千歳科学技術大学の構想のこと。

基本方向

生徒や学生の学ぶ機会の確保に努め、より高度な専門知識を身につける機会を持てるよう努めます。

公立千歳科学技術大学が千歳市の知の拠点として展開できるように「スマートネイチャーシティちとせ構想」の取組や地域社会との連携・協力の支援に努めます。

市内にある高等教育機関が将来にわたって千歳市の活力となるよう連携した取組を進め、学園都市の形成に努めます。



公立千歳科学技術大学(本部棟)



北海道千歳リハビリテーション大学



日本航空大学校 北海道 新千歳空港キャンパス(管理棟)



展開方針4

各世代の生活課題や地域課題に対応した社会教育の充実に努めます。

現状と課題

- 社会教育は、学校の教育課程を除き、主に青少年や成人に対して行われる教育活動です。情報化や国際化の進展、経済競争の激化、急速な高齢化と人口減少に伴う国内経済や財政の規模縮小など、社会の変化が一層激しくなることが想定される中、市民一人ひとりが生涯にわたって学び続け、豊かに生きる力を身につけることができるよう、ライフステージや地域課題・現代的課題に応じた学習機会の提供に一層努める必要があります。また、家庭教育支援については、家庭の教育力の低下が指摘される中、保護者等への情報や学習機会を提供することの重要性が高まっており、引き続きこれらの支援に取り組む必要があります。
- 市立図書館や公民館などの社会教育施設の利用者満足度は、おおむね高い結果となっていますが、施設の老朽化が進んでいることから、今後は、中長期的な視点での計画的かつ効果的な更新・改修を進めていく必要があります。
- 青少年期においては、人格を尊重しあうなど良好な人間関係をつくる方法や未来を開く創造力を養うことが求められており、学校教育のほかに地域社会での様々な体験や多くの人たちとの交流を積み重ねていく必要があります。
- 青少年を取り巻く環境では、家庭、地域社会の教育力^{※1}の低下、出会い系サイトや悪質商法サイトなどの有害な情報の氾濫、SNS^{※2}を介した犯罪被害などが大きな問題となっています。今後も、千歳市の未来を担う青少年の健全育成の重要性を啓発するとともに、健全育成活動や非行防止の取組の充実に努める必要があります。
- 青少年指導センターによる定期的な巡回における指導件数は減少傾向となっています。今後も引き続き、青少年が犯罪に巻き込まれないための取組の充実に努める必要があります。



市立図書館

用語解説

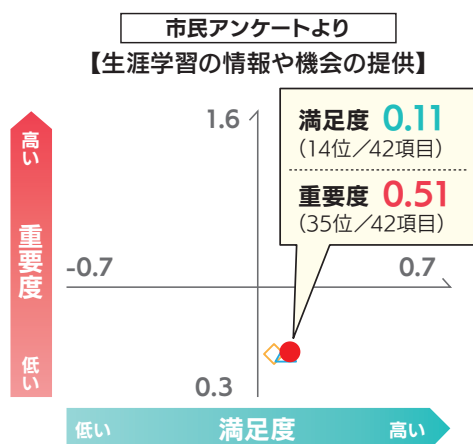
※1 地域社会の教育力：地域の子どもの地域で育てる力や住民自ら認識した地域の課題を自ら解決し、地域としての価値を創造する力のこと。

※2 SNS：「Social Networking Service」の略で、人と人とのつながりを促進・サポートするコミュニティ型のWeb サイトのこと。

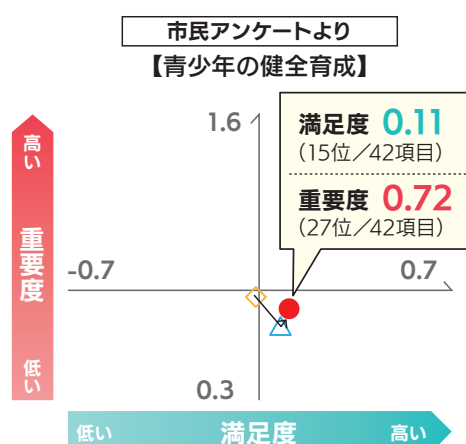
市民の声

【市民アンケート】

- 「生涯学習の情報や機会の提供」は満足度が高く、重要度は比較的低いと評価されています。



- 「青少年の健全育成」は満足度が高く、重要度は平均的と評価されており、満足度は上昇傾向にあります。



- 将来日本の礎となる青少年の育成を大切にしてほしいとの声や図書機能の充実を望む声があります。(自由記述)

【まちづくりインタビュー】

- 市外から通勤している方から、小さい時から千歳を好きになってもらえる取組など若い人が千歳に戻ってくれるようなまちづくりが大事との声があります。
- 子育て世代からは、営利団体等が公民館やコミュニティセンターを使用する際の制限を、目的に応じて緩和するよう望む声があります。

【団体アンケート】

- 文化施設の利用時間帯や設備の改善を望む声があります。(自由記述)

基本方向

保護者の家庭教育を支える学習機会の充実に努めます。

市民それぞれのライフステージにおいて、変化の激しい社会を自立して人生を豊かに生きていくことができる学習機会の充実に努めます。

地域課題・現代的課題に関する学習など、市民一人ひとりの関心を高め、まちづくりの当事者意識を持って行動するために必要な学習機会の充実に努めます。

安全で快適に利用できる社会教育施設の充実や、誰もが読書に親しみ、知識を深める環境づくりに努めます。

青少年の学校外の体験活動や非行防止の取組を進め、青少年が健全に育つ環境づくりに努めます。

青少年のネットトラブルに対応していくため、スマートフォン等の正しい利用や情報モラルの向上を促進します。



展開方針5

文化芸術の振興と 文化財の保護・継承に努めます。

現状と課題

- 北ガス文化ホール（市民文化センター）や市民ギャラリーは、指定管理者により、コンサートなどの魅力的な自主文化事業等を企画・実施しています。利用者数は、おおむね横ばい傾向となっていますが、今後もより魅力ある事業の展開を進め、市民に良好な文化鑑賞機会を提供できるよう、施設の効果的な管理運営を進めていく必要があります。
- 市民が豊かな心を持ち潤いのある生活を送るために、文化芸術の果たす役割は高いものがあります。個人や団体が自主的・主体的に文化芸術活動を行い、相互に高め合い向上していくことができる環境づくりを進めていく必要があります。
- 千歳には豊かな自然とともに数多くの文化財が残され、時を超えたメッセージを伝えてくれます。特に埋蔵文化財は豊富で、令和2年（2020年）10月までに確認した遺跡の数は305か所に上り、国指定史跡2か所、国指定重要文化財3件、市指定史跡1か所、市指定有形文化財3件があります。また、埋蔵文化財以外では、近代・現代の歴史と文化を伝える有形文化財3件、無形文化財1件と、アイヌの人々が伝承してきた無形文化財1件を市の文化財として指定しています。
- 国指定史跡キウス周堤墓群※は、平成24年（2012年）、ユネスコ世界遺産暫定一覧表記載資産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産となりました。「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、令和2年（2020年）、国によりユネスコ世界文化遺産に推薦されています。
- 現在の社会情勢では、自然や歴史・文化を大切に、環境に配慮した生活空間を望むようになってきた一方、少子高齢化・人口減少などにより、文化財の保存や伝統芸能の継承が困難になりつつあります。これらを保存し確実に未来に継承するためには、多くの市民にその内容や価値を示していく必要があります。
- 将来にわたり文化財の保存・活用、継承を実践していくためには、市民との持続可能な連携・協働体制を構築する必要があります。
- 「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」の施行に伴い、「千歳市アイヌ施策推進地域計画」を策定し、多くの方がアイヌ文化に関心を持ち、理解を深めるための環境整備や情報発信を進めています。今後もアイヌ文化の保存・継承に向けた取組や普及・啓発活動など、幅広い施策を実施していく必要があります。

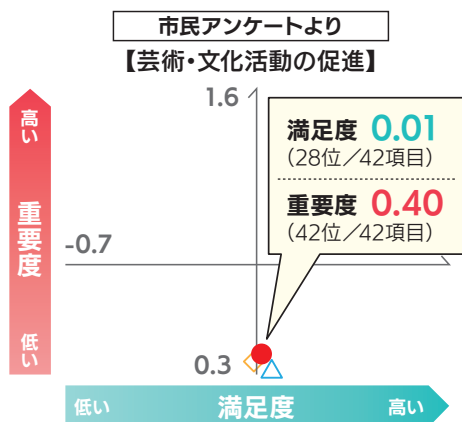
用語解説

※ **キウス周堤墓群**：縄文時代後期後葉（紀元前1,200年頃）に構築された集団墓のこと。地面を円形に掘り下げ、周囲に土を環状に盛った区画の中に墓坑を設け遺体を埋葬した。史跡指定地内には非常に大型のものを含め9基の周堤墓が存在。世界的にも狩猟採集民の築いた構造物としては最大級。

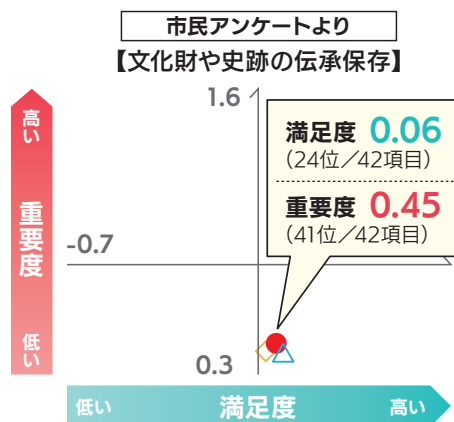
市民の声

【市民アンケート】

■「芸術・文化活動の促進」は満足度は平均的で、重要度は比較的低いと評価されています。



■「文化財や史跡の伝承保存」は満足度は平均的で、重要度は比較的低いと評価されています。



■千歳の文化や歴史を子どもや興味を持った人が知しやすい環境づくりを望む声や、キウス遺跡の重要さが周知されていないとの声があります。(自由記述)

基本方向

多様な文化芸術に親しむことができる機会や地域に根ざした文化芸術活動の支援の充実に努めます。

千歳の貴重な文化財を大切に保存、活用し、将来にわたり市民が文化財の持つ価値や魅力を楽しむことができるよう、次世代へと確実に伝えるとともに、市民と一緒に文化財を地域で守り継承していくことを目指します。

先人から受け継がれてきたアイヌ語や伝統舞踊、伝統儀礼をはじめとしたアイヌの伝統及び文化の保存・継承に努めるとともに、普及・啓発の取組を進め、アイヌの歴史や伝統・文化の魅力について市民の理解を深めます。



アシリパノミ (新年の平和を願いカムイ(神)に祈りを捧げる伝統儀式)



国指定史跡キウス周堤墓群

展開方針6

誰もがスポーツに親しめる 生涯スポーツの普及に努めます。

現状と課題

- 子どもから高齢者まで多くの市民が生涯を通じて、健康で楽しく、スポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会を実現するため、スポーツ関係団体等との連携や情報提供の整備、指導者の充実・確保、団体の育成、競技スポーツの推進など、多様化するニーズに対応した環境づくりを進める必要があります。
- 市内のスポーツ施設は、設置から25年以上経過し、老朽化が進んでいる施設が多く、施設の改修を望む声が多くあります。今後もバリアフリー化、機能性の向上などニーズの多様化に対応したスポーツ施設の整備改修を進めるとともに、施設の安全性や快適性の維持・向上を図り、市民に一層親しまれる運営管理を進めていく必要があります。

市民の声

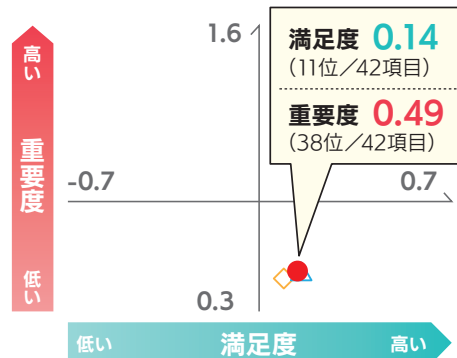
【市民アンケート】

- 「スポーツ活動の推進」は満足度が高く、重要度は比較的低いと評価されています。

【まちづくりインタビュー】

- 大学生から、運動やスポーツなど体を動かせる施設の充実を求める声があります。

市民アンケートより
【スポーツ活動の推進】



基本方向

健康づくりや体力増進に関する市民の意識を高めるとともに、生涯を通じて誰もがスポーツに親しむことができる場や機会の充実に努めます。

多様化するスポーツニーズを把握し、スポーツ活動や指導者体制の充実に努めます。

既存スポーツ施設の老朽化に伴う整備改修を進め、快適で安全なスポーツ施設の充実に努めます。